

平成21年度全国学力・学習状況調査の結果について

大山町教育委員会

平成21年4月21日に実施した「全国学力・学習状況調査」の大山町の結果について公表します。

この調査は、国語と算数・数学の2教科についての調査であり、児童生徒の学力の全てを見ることはできませんが、町内の各学校ではこの結果を一つの手がかりとして、成果と課題を明らかにして今後の教育活動に生かしていこうとしています。

大山町教育委員会では、学校の取り組みの進捗状況を把握しつつ、より質の高い教育の実現に向けて取り組んでいきます。

I 調査の概要

1 調査の目的

- 全国的な義務教育の機会均等とその水準向上のため、児童生徒の学力・学習状況を把握・分析することにより、教育の成果と課題を検証し、改善を図る。
- 各教育委員会、学校等が全国的な状況との関係において、自らの教育の成果と課題を把握し、改善を図る。
- 各学校が、各児童生徒の学力や学習状況を把握し、児童生徒への教育指導や学習状況の改善等に役立てる。

2 調査内容

- 小学校第6学年、中学校第3学年の全児童生徒を対象
- 教科に関する調査は、国語、算数・数学の2教科について、「知識」に関する問題A、「活用」（知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力など）に関する問題Bを出題
- 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査を児童生徒と学校に実施

3 調査日時

平成21年4月21日（火）

4 大山町の参加状況

- 参加学校数 7校（小学校4校、中学校3校）
- 参加児童生徒数 296人（小学校6年生125人、中学校3年生171人）

※ 結果の分析に当たって、国・県と比べて平均正答率等の差に応じて次のように表現しています。

- ・差が 5 ポイント未満の場合、「やや高い (低い)」「やや多い (少ない)」
- ・差が 5 ポイント以上 10 ポイント未満の場合、「高い (低い)」「多い (少ない)」
- ・差が 10 ポイント以上の場合、「かなり高い (低い)」「かなり多い (少ない)」

II 教科に関する調査結果

1 小学校

データ 1－①学力調査結果 (小学校)、1－②学力調査結果概況 (小学校)

(1) 小学校全体について

- 県全体の平均正答率は、国語・算数ともに国と比較してやや高い。
- 大山町全体の平均正答率は、県と比較して国語・算数ともにやや低く、国と比較して国語はやや高く、算数はやや低い。

(2) 国語について

- 国語 A・国語 B とも、大山町の平均正答率は、県と比較してやや低い。
- 国語 A の領域「読むこと」、評価の観点「読む能力」の平均正答率は、県と比較して 2.5% 高い。
- 国語 A の領域「書くこと」、評価の観点「書く能力」の平均正答率は、県と比較して 2% 低い。
- 国語 B の領域「言語事項」、評価の観点「言語についての知識・理解・技能」の平均正答率は、県と比較して 1.7% 高い。
- 国語 B の領域「読むこと」、評価の観点「読む能力」の平均正答率は、県と比較して 3.3% 低い。
- 国語 A の領域「話すこと・聞くこと」において、学校間の差がかなり大きい。(差 30.4%)

(3) 算数について

- 算数 A・算数 B とも、大山町の平均正答率は、県と比較してやや低い。
- 算数 A・算数 B とも、すべての領域の平均正答率が、県と比較してやや低い。
- 算数 A では、領域「数と計算」の平均正答率は、県と比較して 4.6%、評価の観点「数量や図形についての知識・理解」の平均正答率は、県と比較して 4.2%

低い。

- 算数Bでは、領域「量と測定」の平均正答率は、県と比較して5.6%、評価の観点「数量や図形についての表現・処理」の平均正答率は、県と比較して4%低い。
- 算数Bの領域「図形」において、学校間の差がかなり大きい。(差19.3%)

2 中学校

データ2-①学力調査結果(中学校)、2-②学力調査結果概況(中学校)

(1) 中学校全体について

- 県全体の平均正答率は、国語・数学ともに国と比較してやや高い。
- 大山町全体の平均正答率は、県と比較して国語・数学ともにやや低く、国と比較して国語A・数学Bはやや高く、国語B・数学Aはやや低い。

(2) 国語について

- 国語A・国語Bとも、大山町の平均正答率は、県と比較してやや低い。
- 国語Aの領域「言語事項」、評価の観点「言語についての知識・理解・技能」の平均正答率は、県と比較して1.7%高い。
- 国語Aの領域「話すこと・聞くこと」、評価の観点「話す・聞く能力」の平均正答率は、県と比較して3.3%低い。
- 国語Bの領域「書くこと」、評価の観点「国語への関心・意欲・態度」「書く能力」の平均正答率は、県と比較して2.4%低い。

(3) 数学について

- 数学A・数学Bとも、大山町の平均正答率は、県と比較してやや低い。
- 数学Aでは、領域「図形」の平均正答率は、県と比較して2.9%、評価の観点「数量、図形などについての知識・理解」の平均正答率は、県と比較して2.5%低い。
- 数学Bの評価の観点「数学的な表現・処理」の平均正答率は、県と比較して5%低い。
- 数学Bの領域「数と式」において、学校間の差がかなり大きい。(差14.2%)
- 数学A・Bの正答数の分布は、台形状のグラフになっており、正答数が中央値に集中せず大きなばらつきが見られる。

Ⅲ 児童生徒質問紙調査の結果

1 小学校

データ 3-①小学校児童質問紙回答結果集計、3-②選択肢問題グラフ(小学校)

(1) 鳥取県と国を比較して、大きな差が見られる項目

- ・携帯電話を持っていない児童の割合・・・国より 11.4 ポイント高い。
- ・学習塾に通っていない児童の割合・・・国より 10.4 ポイント高い。
- ・今住んでいる地域の行事に参加している・・・国より 13.7 ポイント高い。

(2) 大山町全体の傾向（肯定的な回答の割合の比較）

○県と比較して、10 ポイント以上高い項目

- ・今住んでいる地域の歴史や自然について関心がある（問 35）

○県と比較して、5 ポイント以上高い項目

- ・将来の夢や目標を持っている（問 8）
- ・家の人と普段、朝食を一緒に食べている（問 21）
- ・国語の勉強が好き（問 52）
- ・読書が好き（問 55）

○県と比較して、5 ポイント以上低い項目

- ・400字づめ原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くのは難しいと思う（問 50）
- ・算数の勉強が好き（問 63）
- ・算数の授業の内容はよく分かる（問 65）
- ・算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いている（問 72）

○県と比較して、10 ポイント以上低い項目

- ・国語B-1の問題にあるような、長い文章を読むのは難しかった（問 61）

○学校間の差が大きい項目

- ・家で学校の授業の予習をしている（問 28）
- ・家で学校の授業の復習をしている（問 29）
- ・家で苦手な教科の勉強をしている（問 30）
- ・家でテストで間違えた問題について、間違えたところを後で勉強している（問 31）
- ・今住んでいる地域の歴史や自然について関心がある（問 35）
- ・今住んでいる地域の行事に参加している（問 36）
- ・「総合的な学習の時間」の勉強が好き（問 44）
- ・普段の授業では、本やインターネットを使って、グループで調べる活動をよく行っている（問 46）

- ・国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫している（問 58）

2 中学校

データ 4－①中学校生徒質問紙回答結果集計、4－②選択肢問題グラフ(中学校)

(1) 鳥取県と国を比較して、大きな差が見られる項目

- ・携帯電話を持っていない生徒の割合・・・国より 29.0 ポイント高い。

(2) 大山町全体の傾向（肯定的な回答の割合の比較）

○県と比較して、10 ポイント以上高い項目

該当項目なし

○県と比較して、5 ポイント以上高い項目

- ・今住んでいる地域の行事に参加している（問 36）
- ・国語の勉強が好き（問 52）

○県と比較して、5 ポイント以上低い項目

- ・毎日、同じくらいの時刻に寝ている（問 3）
- ・自分には、よいところがあると思う（問 7）
- ・家で学校の授業の予習をしている（問 28）
- ・家で学校の授業の復習をしている（問 29）
- ・家で苦手な教科の勉強をしている（問 30）
- ・家でテストで間違えた問題について、間違えたところを後で勉強している（問 31）
- ・学校の規則を守っている（問 37）
- ・人が困っているとき進んで助ける（問 39）
- ・「総合的な学習の時間」の勉強が好き（問 44）
- ・「総合的な学習の時間」の授業で学習したことは、普段の生活や社会に出たときに役に立つと思う（問 45）
- ・普段の授業では、生徒の間で話し合う活動をよく行っていると思う（問 48）
- ・数学の勉強が好き（問 63）
- ・数学の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考える（問 67）
- ・数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う（問 69）

○県と比較して、10 ポイント以上低い項目

- ・難しいことでも、失敗をおそれないで挑戦している（問 6）
- ・学校で好きな授業がある（問 33）
- ・数学の勉強は大切だと思う（問 64）

○学校間の差が大きい項目

- ・「総合的な学習の時間」の授業で学習したことは、普段の生活や社会に出たときに役に立つと思う（問 45）
- ・国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしている（問 57）

3 小学校と中学校の比較

データ 5 質問紙調査結果の小学校と中学校の比較

(1) 大山町全体の傾向（肯定的な回答の割合の比較）

○中学校と比較して、小学校の方が 10 ポイント以上高い項目

- ・毎日、同じくらいの時刻に寝ている（問 3）
- ・難しいことでも、失敗をおそれないで挑戦している（問 6）
- ・自分には、よいところがあると思う（問 7）
- ・将来の夢や目標をもっている（問 8）
- ・家の人と普段、朝食を一緒に食べている（問 21）
- ・家の人と学校での出来事について話をしている（問 23）
- ・家の手伝いをしている（問 24）
- ・家で自分で計画を立てて勉強をしている（問 26）
- ・家で学校の授業の予習をしている（問 28）
- ・家で学校の授業の復習をしている（問 29）
- ・家で苦手な教科の勉強をしている（問 30）
- ・家でテストで間違えた問題について、間違えたところを後で勉強している（問 31）
- ・学校で好きな授業がある（問 33）
- ・今住んでいる地域の歴史や自然について関心がある（問 35）
- ・今住んでいる地域の行事に参加している（問 36）
- ・人が困っているときは、進んで助けている（問 39）
- ・「総合的な学習の時間」の勉強が好き（問 44）
- ・「総合的な学習の時間」の授業で学習したことは、普段の生活や社会に出たときに役に立つと思う（問 45）
- ・普段の授業では、本やインターネットを使って、グループで調べる活動をよく行っている（問 46）
- ・普段の授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていると思う（問 48）
- ・国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫している（問 58）
- ・国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気をつけて書いている（問 59）
- ・国語の授業で文章を読むとき、段落や話のまとめりごとに内容を理解しながら

ら読んでいる (問 60)

- ・算数の勉強が好き (問 63)
- ・算数の勉強は大切だと思う (問 64)
- ・算数の授業の内容はよくわかる (問 65)
- ・算数の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考える (問 67)
- ・算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考える (問 68)
- ・算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う (問 69)
- ・算数の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考える (問 70)
- ・算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしている (問 71)

○中学校と比較して、小学校の方が5ポイント以上高い項目

- ・学校に持って行くものを、前日か、その日の朝に確かめている (問 2)
- ・家で学校の宿題をしている (問 27)
- ・学校のきまり・規則を守っている (問 37)
- ・いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う (問 42)
- ・人の役に立つ人間になりたいと思う (問 43)
- ・国語の勉強は大切だと思う (問 53)
- ・読書が好き (問 55)
- ・国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う (問 56)
- ・国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしている (問 57)

○中学校と比較して、小学校の方が5ポイント以上低い項目

- ・学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりするのは難しいと思う (問 51)

○中学校と比較して、小学校の方が10ポイント以上低い項目

- ・400字づめ原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くのは難しいと思う (問 50)
- ・国語B－1の問題にあるような、長い文章を読むのは難しかった (問 61)

4 3年間の比較（肯定的な回答の割合の比較）

データ 6 - ①質問紙調査結果の3年間の比較（小学校）

6 - ②質問紙調査結果の3年間の比較（中学校）

（1）小学校

○3年間とも県に比べて高い項目

- ・家で学校の授業の復習をしている（問 29）
- ・今住んでいる地域の歴史や自然について関心がある（問 35）
- ・国語の勉強が好き（問 52）

○3年間とも県に比べて低い項目

- ・毎日、朝食を食べている（問 1）
- ・ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがある（問 5）
- ・家の人と学校での出来事について話をしている（問 23）
- ・家の手伝いをしている（問 24）
- ・新聞やテレビのニュースなどに関心がある（問 34）
- ・今住んでいる地域の行事に参加している（問 36）
- ・友達との約束を守っている（問 38）
- ・人が困っているときは、進んで助けている（問 39）
- ・「総合的な学習の時間」の授業で学習したことは、普段の生活や社会に出たときに役に立つと思う（問 45）
- ・国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う（問 56）
- ・算数の授業の内容はよくわかる（問 65）
- ・算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う（問 69）

○3年間で割合が上がってきている項目

- ・学校に持って行くものを、前日か、その日の朝に確かめている（問 2）
- ・毎日、同じくらいの時刻に寝ている（問 3）
- ・毎日、同じくらいの時刻に起きている（問 4）
- ・ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがある（問 5）
- ・難しいことでも、失敗をおそれないで挑戦している（問 6）
- ・自分には、よいところがあると思う（問 7）
- ・将来の夢や目標をもっている（問 8）
- ・家の人と学校での出来事について話をしている（問 23）
- ・家で学校の授業の予習をしている（問 28）
- ・家で学校の授業の復習をしている（問 29）
- ・学校で友達に会うのは楽しいと思う（問 32）
- ・今住んでいる地域の歴史や自然について関心がある（問 35）
- ・学校のきまりを守っている（問 37）

- ・友達との約束を守っている（問 38）
- ・人が困っているときは、進んで助けている（問 39）
- ・人の役に立つ人間になりたいと思う（問 43）
- ・「総合的な学習の時間」の勉強が好き（問 44）
- ・「総合的な学習の時間」の授業で学習したことは、普段の生活や社会に出たときに役に立つと思う（問 45）
- ・国語の勉強が好き（問 52）
- ・算数の勉強は大切だと思う（問 64）
- ・算数の授業で新しい問題に出合ったとき、それを解いてみたいと思う（問 66）

○3年間で割合が下がってきている項目

該当項目なし

(2) 中学校

○3年間とも県に比べて高い項目

- ・家で学校の宿題をしている（問 27）
- ・今住んでいる地域の行事に参加している（問 36）
- ・近所の人に会ったときは、あいさつをしている（問 40）
- ・国語の授業の内容はよく分かる（問 54）

○3年間とも県に比べて低い項目

- ・学校で友達に会うのは楽しいと思う（問 32）
- ・学校の規則を守っている（問 37）
- ・人の気持ちが分かる人間になりたいと思う（問 41）
- ・人の役に立つ人間になりたいと思う（問 43）
- ・数学の勉強は大切だと思う（問 64）
- ・数学ができるようになりたいと思う（問 66）
- ・数学の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考える（問 68）

○3年間で割合が上がってきている項目

- ・家の人と普段、夕食を一緒に食べている（問 22）
- ・今住んでいる地域の行事に参加している（問 36）
- ・人の気持ちが分かる人間になりたいと思う（問 41）

○3年間で割合が下がってきている項目

- ・難しいことでも、失敗をおそれないで挑戦している（問 6）
- ・自分には、よいところがあると思う（問 7）
- ・家の人と普段、朝食を一緒に食べている（問 21）
- ・家で学校の授業の予習をしている（問 28）
- ・今住んでいる地域の歴史や自然について関心がある（問 35）
- ・人が困っているときは、進んで助けている（問 39）
- ・近所の人に会ったときは、あいさつをしている（問 40）

- ・ いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う（問 42）
- ・ 「総合的な学習の時間」の授業で学習したことは、普段の生活や社会に出たときに役に立つと思う（問 45）
- ・ 数学の勉強は大切だと思う（問 53）
- ・ 国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う（問 56）

IV 教科に関する調査結果と質問紙調査との関連

データ 7-①相関関係グラフ（小学校）、7-②相関関係グラフ（中学校）

質問紙調査において肯定的な回答をした児童生徒の方が、教科に関する調査の平均正答率が高くなる傾向が見られる項目がある。

1 小学校、中学校共に、相関が強く見られる項目

- ・ 普段の授業で自分の考えを発表する機会が与えられていると思う（問 47）
- ・ 授業では、ノートを丁寧に書いている（問 49）
- ・ 国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫している（問 58）
- ・ 国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気をつけて書いている（問 59）
- ・ 算数・数学の問題の解き方が分からないときは、あきらめずいろいろな方法を考える（問 67）
- ・ 算数・数学の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけ・根拠を理解するようにしている（問 71）
- ・ 算数・数学の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートを書いている（問 72）

2 小学校については、相関が強く見られる質問項目

- ・ 毎日、同じくらいの時刻に寝ている（問 3）
- ・ 毎日、同じくらいの時刻に起きている（問 4）
- ・ 家の手伝いをしている（問 24）
- ・ 家で自分で計画を立てて勉強をしている（問 26）
- ・ 友達との約束を守っている（問 38）
- ・ 人が困っているときは、進んで助けている（問 39）
- ・ 近所の人に会ったときは、あいさつをしている（問 40）
- ・ いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う（問 42）
- ・ 国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりして

いる（問 57）

- ・算数の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考える（問 70）

3 中学校については、相関が強く見られる質問項目

- ・学校に持って行くものを、前日か、その日の朝に確かめている（問 2）
- ・家で学校の宿題をしている（問 27）
- ・新聞やテレビのニュースなどに関心がある（問 34）
- ・学校の規則を守っている（問 37）
- ・国語の授業の内容はよく分かる（問 54）
- ・読書が好き（問 55）
- ・国語の授業で文章を読むとき、段落や話のまとめりごとに内容を理解しながら読んでいる（問 60）
- ・数学の勉強が好き（問 63）
- ・数学の授業の内容はよく分かる（問 65）

V 調査結果のまとめ

1 学力調査結果について

- （1）小学校においては、国語、算数ともに概ね良好であるが県をやや下回っており、特に算数Bにおいては国・県との差が大きい。中学校においては、国語、算数ともに概ね良好であるが県をやや下回っている。
- （2）小学校、中学校ともに学校間の差が大きい。特に、小学校では算数Bで 9.9%、中学校では数学Aで 10.9%の差が見られる。それぞれの学校が自校の結果をしっかり分析し、授業改善等に取り組む必要がある。
- （3）中学校段階で見える課題は、小学校からの積み重ねの結果でもあるという視点を持って、校区の小・中学校が情報や課題を共有し、連携して学力向上に取り組むことが重要である。

2 質問紙調査結果について

- （1）質問紙調査結果から、大山町の子どもたちは、概ね基本的な生活習慣は身につけている状況がうかがえる。
- （2）小学校においては、県と比較して肯定的な回答の割合が高い項目が多く、良好な基本的な生活習慣、学習意欲、地域や家族の一員としての意識をもっていることがうかがえる。中学校においては、県と比較して肯定的な回答の割合が低い項目が多く、基本的な生活習慣、学習意欲、規範意識に課題が見られる。
- （3）読書習慣について、小学校では読書が好きな児童の割合が高く、平日の読書時間も長い。中学校では、読書が好きな生徒の割合は国や県よりやや高いが、平日読書をしない生徒の割合が 34.5%と 3 分の 1 以上を占めている。
- （4）平日の家庭での学習については、県や国と比べ学習時間が短い児童生徒の割合

が高い。休日では、さらに短時間だと答えた児童生徒の割合が高くなる。学校と家庭が連携して、家庭学習に対する必要感を高めるような働きかけをする必要がある。

- (5) 大山町では学習塾（家庭教師を含む）に通っていない児童生徒の割合が高く、小学生 75.2%（全国 52.4%、県 62.8%）、中学生 52/9%（全国 36.7%、県 42.8%）となっている。大山町の地理的な条件によって差が生じていると考えられるが、家庭での学習を充実させることが重要である。
- (6) 全国的に、小・中学生が携帯電話を持つことから生じるさまざまな課題が指摘されているが、大山町では携帯電話を持たない児童生徒の割合が高く、小学生 83.2%（全国 69.4%、県 80.8%）、中学生 75.9%（全国 39.8%、県 66.2%）となっている。特に中学生の割合が大きく異なっており、子ども達を取り巻く生活環境に違いがあることが分かる。

3 学力調査結果と質問紙調査結果の関連について

- (1) 学力調査結果と質問紙調査結果の関連から明らかなように、生活習慣や学習環境などは学力に大きな相関があると思われる。学力の向上は学校の授業改善のみによって行われるのではなく、家庭での良好な人間関係や生活習慣が土台となっていることから、学校と家庭が情報や課題を共有し、連携して取り組むことが重要である。
- (2) 学力と生活習慣・学習環境の相関は、小学生と中学生によって同様な傾向がうかがえる項目もあれば、傾向が異なる項目もある。また、国語と算数・数学の教科の違いによっても異なる傾向が見える。学力向上の視点から、結果をきちんと整理して活用することが必要である。

4 全体を通して

- (1) 冒頭にも述べたとおり、本調査は国語と算数・数学の2教科についての調査であり、また、学力のうちペーパーテストではかることができるものの結果である。学校においては、診断テストなど本調査以外のさまざまな検査結果等と併せて活用することが重要であるが、本調査は学力のみではなく、生活習慣や学習環境などとの関連を考察できる有効な調査である。情報を全教職員や保護者と共有しながら、児童生徒個々の指導、学校全体の教育活動に生かしてほしい。
- (2) 教育委員会は、今年度以降も継続して本調査に協力・参加することで、大山町の小中学生の学力等の状況や指導の現状や課題をより正確に把握し、今後の教育施策の充実を図っていきたいと考えている。